

宮崎県立宮崎東高等学校
定時制課程夜間部
における
「総合的な探究の時間」

宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部

西山正三

～自己紹介～

西山 正三(にしやま まさみ)

宮崎東高等学校定時制課程夜間部4年目

理科教諭

「探究関係」

前任の五ヶ瀬中等教育学校

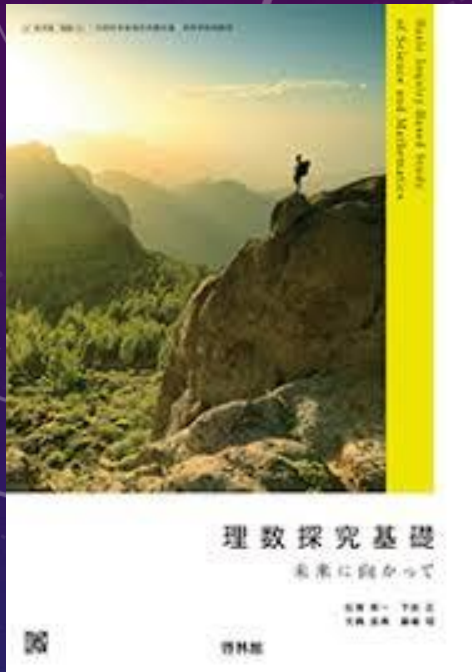
から約20年探究学習に

携わっている

理数探究基礎の教科書編集

課題研究メソッド書籍編集

産業能率大学主催 授業力向上フォーラム等



毎週火曜日1コマ

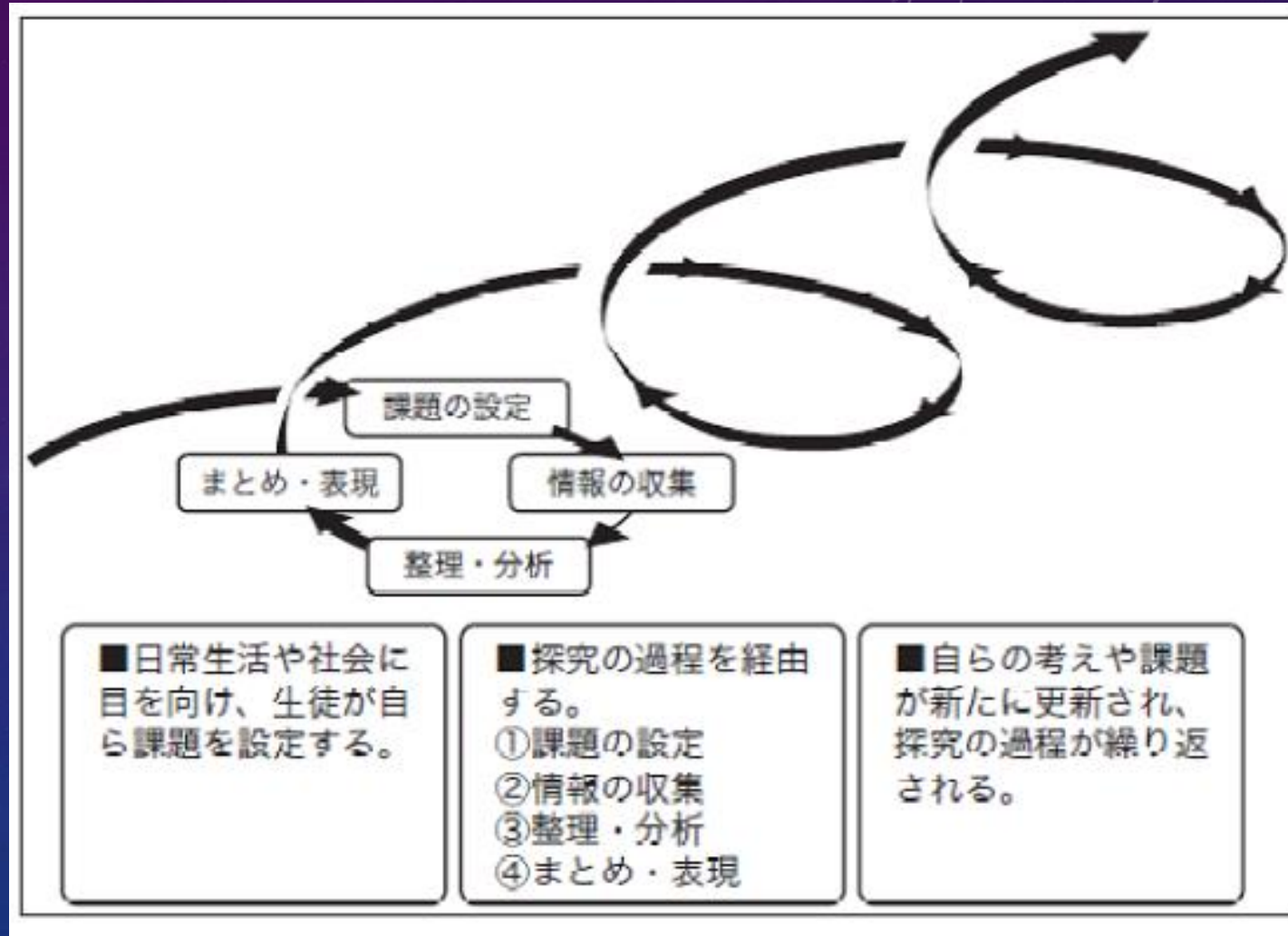
定時制でもできる

定時制だからできる

探究学習

「生徒が生きがいを感じるための探究活動」

三菱みらい育成財団
3年間(年間100万円)



※高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編 第3章第2節1(1)
「探究における生徒の学習の姿」

生徒の特徴：不登校・昼夜逆転・自己肯定感が低い
生徒に問題があるわけではない

小説・料理・
作詞作曲etc

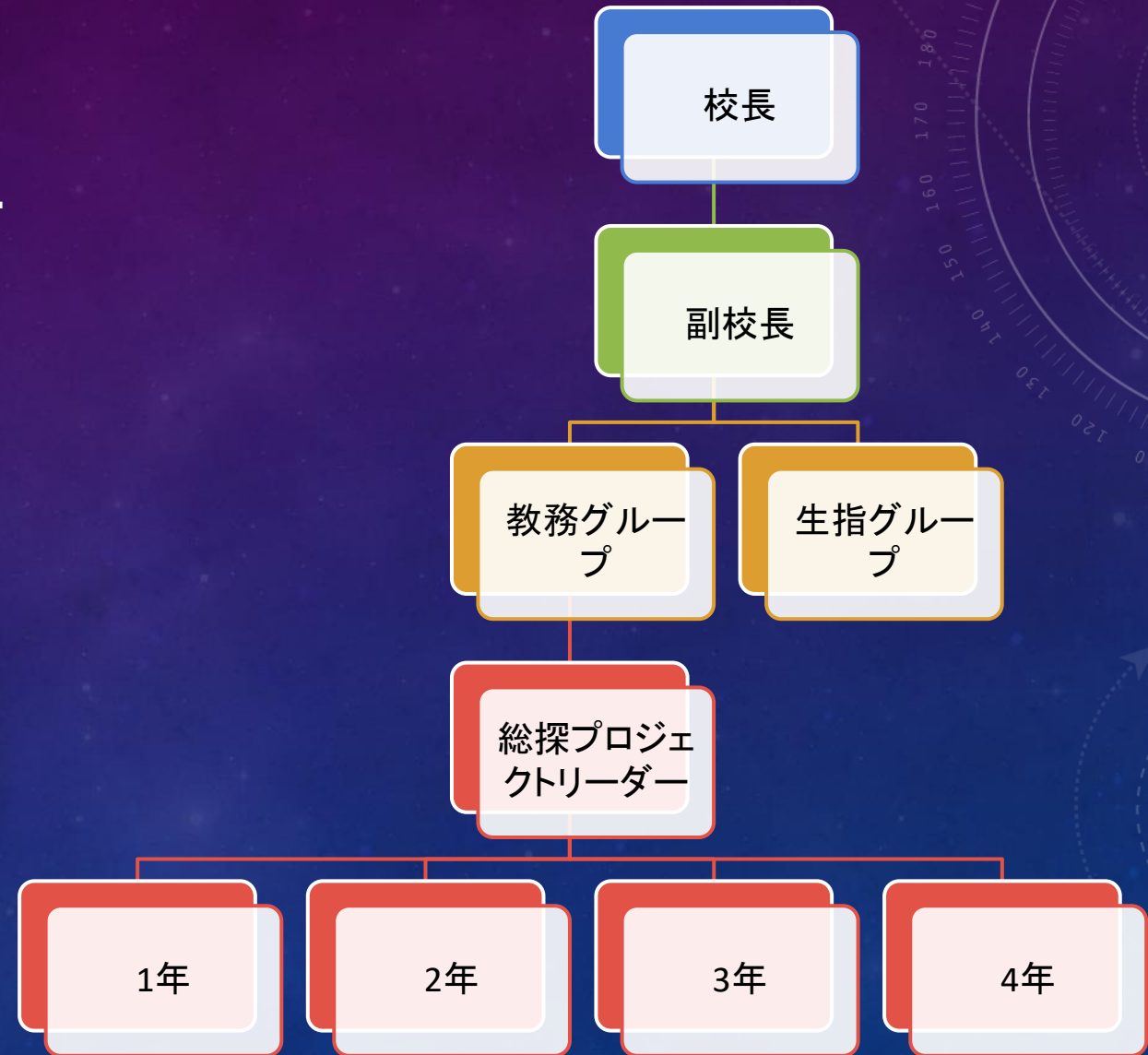
既存の教科
国語・数学・
理科etc

生徒の得意なもの、
好きなものを見つけ、探
究活動を4つのサイクル
でスパイラル的に行い、
進路につなげる時間
→総合的な探究の時間

～プログラムの取組体制～

総探プロジェクトリーダーを設置し、リーダーを中心にプロジェクトチーム(各学年一人)が、各学年の総合的な探究の時間を企画運営する。

また、月に一度プロジェクト委員会を開き、進捗状況と業務の確認や悩んでいることなどを共有し、よりよいものとしていく。



総合的な探究の時間

(宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部)

「自己探究」1年次

- 自分のことを知る、好きになる時間
- 自分の可能性を見つける時間
- 課題設定まで行う

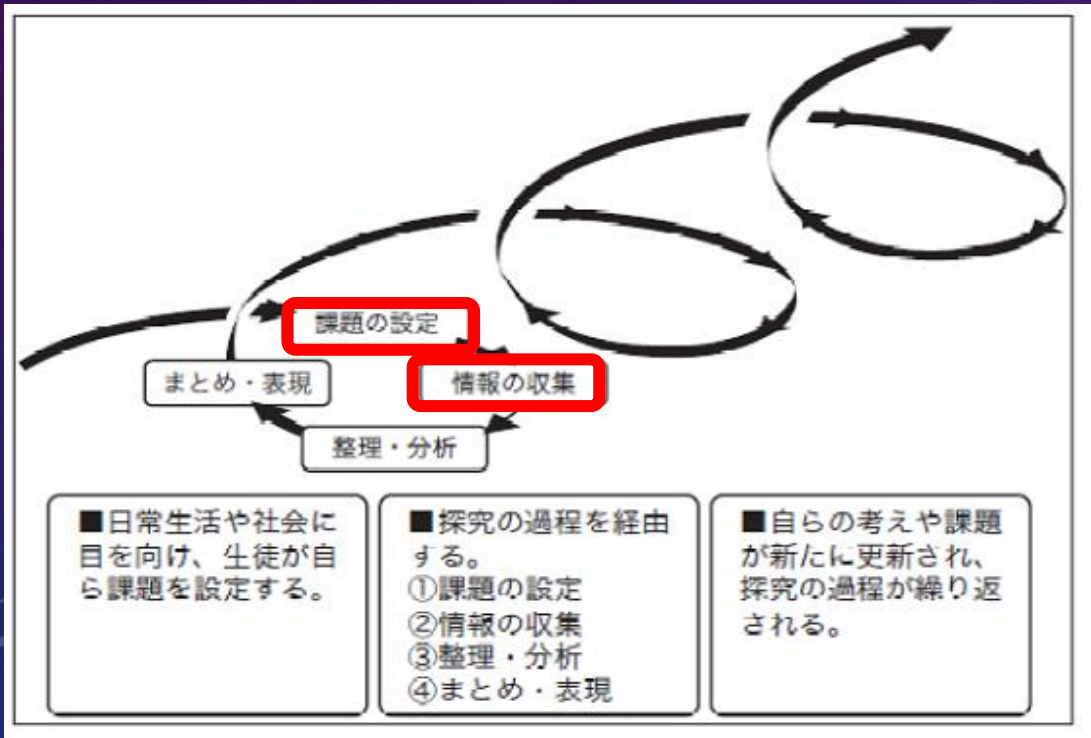
「社会探究」2, 3年次

「進路探究」3, 4年次

総合的な探究の時間

(宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部)

「自己探究」1年次



「自分と向き合うワーク→興味のある課題設定」

- ガイダンス
- 自分の強みを知ろう
- 月からの脱出
- マインドマップ、マンダラート
- 哲学対話
- 5W2Hで問いを立てる

哲学対話

哲学対話の基本的なルール

- ①何を言ってもいい
- ②人の言うことに対して否定的な態度をとらない
- ③発言せず、ただ聞いているだけでもいい
- ④お互いに問いかけるようにする
- ⑤知識ではなく、自分の経験にそくして話す
- ⑥話がまとまらなくてもいい
- ⑦意見が変わってもいい
- ⑧分からなくなってもいい

「問い、考え、語り、聞くこと」→哲学対話の基本



ファシリテーター
東京大学：梶谷真司教授

公開授業

R4 8月 (1年生)哲学対話の1回目
(2・3年生)中間発表会

R5 9月 (1年生)哲学対話の最終回(4回目)
(2・3年生)中間発表会

※公開授業や総合探究成果発表会、過程重視探究発表会を通じていろいろな学校に普及させていきたい。

※高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編

第10章第3節1 カリキュラム・マネジメントの視点からの評価

「また、実際に授業を公開し、総合的な探究の時間で探究する生徒の様子を直に見てもらうことで理解を広げること

総合的な探究の時間

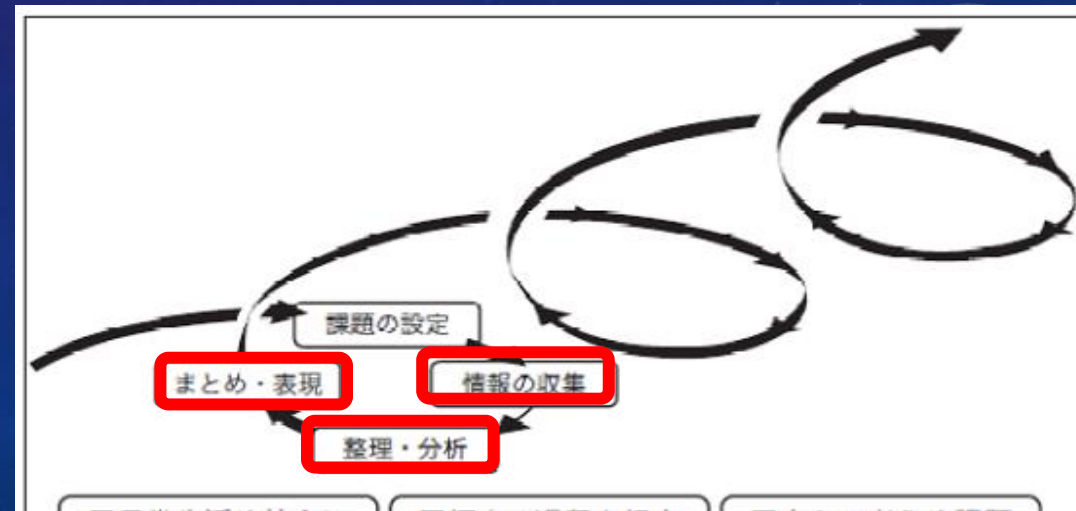
(宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部)

「自己探究」1年次

「社会探究」2, 3年次

「進路探究」3, 4年次

- 実際に探究活動を行い、情報の収集をしながら、整理分析し、プレゼンテーションや要旨にまとめる



総合的な探究の時間

(宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部)

「自己探究」1年次

「社会探究」2, 3年次

「進路探究」3, 4年次

- ・ 今まで行ってきたワークやノウハウを利用して、自分の時間を使い、自主的に探究活動を行う。

総合的な探究の時間 発表会

(宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部)

12月総合探究成果発表会(予選)

全学年全生徒の発表

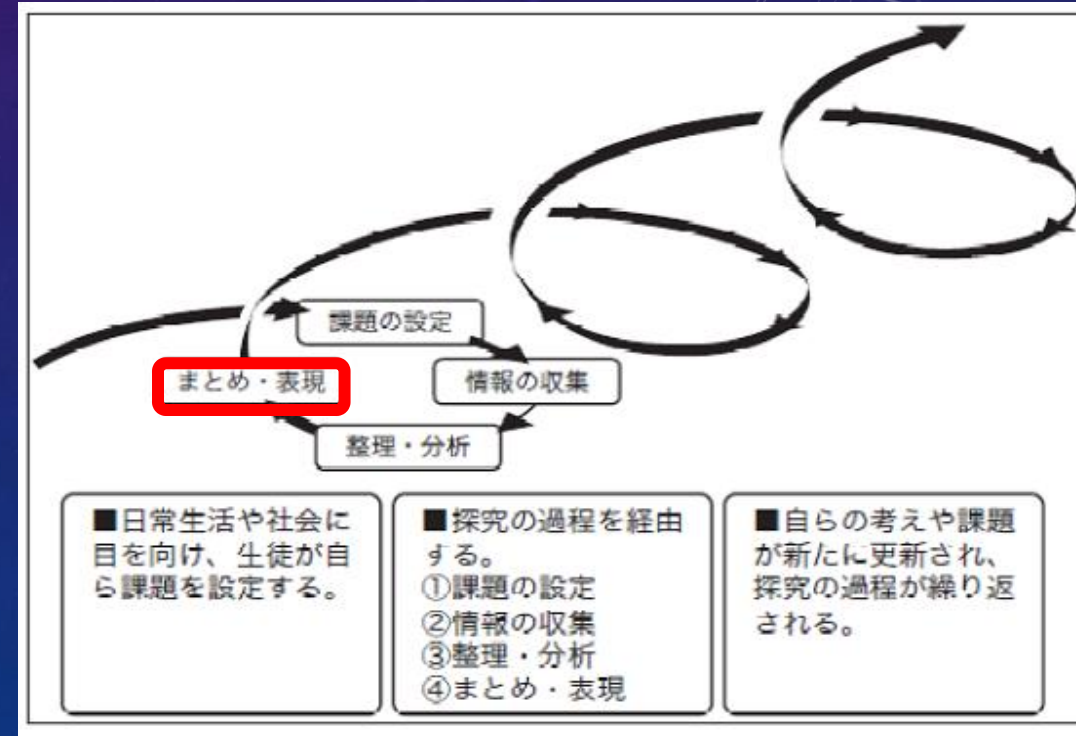
新入年次「課題の設定」

在校年次「探究活動」

卒業年次「探究活動」

1月総合探究成果発表会(本選)

各年次代表者3名の発表



※文部科学省「探究における生徒の学習の姿」

過程重視探究発表会・交流会

(定時制の総合的な探究の時間全国大会・交流会)

3月

決して恵まれた環境と言えない定時制課程における探究活動において、結果ではなく、どのくらい自分の好きなものに対する探究活動に取り組めたかを重視する発表会を行い、生徒に成功体験を経験させ、これからの人生において自信を持たせる。

今回の発表会を通じて「過程重視の探究」モデルを提起する。

※高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編

第10章第2節2 評価基準の設定と評価方法の工夫改善

「生徒がどのように探究の過程を通して学んだかを見取ることが大事である。」

◆ 評価

各学校で定めた総合的な探究の時間の目標を踏まえ、3観点について記入する。

(本文 p.78 ~ 87)

総合的な探究の時間において行った学習活動を記入する。

(本文 p.78 ~ 87)

各学校が定めた特別活動全体の評価の観点を記入した上で、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事ごとに、評価の観点に照らして「十分満足できる」と判断される場合に○印を記入する。

(本文 p.88 ~ 90)

生徒氏名	学 事 一 郎	
総合的な探究の時間の記録		
学 習 活 動	観 点	評 価
<ul style="list-style-type: none"> 探究課題は「防災」で、過去の災害の被害状況をグループで調べた。被災地の方々とオンライン上で交流し、実際の復興経過について話し合った。 防災訓練の体験活動を通して緊急時の対応を身につけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に身を守るための知識と対処法 協働的な学びを通して、問題解決力の向上 自助共助の意識を高め、ボランティア活動に参画 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所で生活した体験談を聞き、女性や社会的弱者に対する視点の必要性に気づき、自校の体育館を想定した避難所運営の企画をグループで発表した。 これを機に普通救命講習Ⅰを取得した。

各学校が設定した観点を踏まえ、生徒の学習状況及び身につけた力や成果について記入する。

(本文 p.78 ~ 87)

◆評価

各学校で定めた総合的な探究の時間の目標を踏まえ、3観点について記入する。

(本文 p.78 ~ 87)

各学校が設
を踏まえ、
状況及び身
や成果につ
る。

(本文 p.78・

生徒氏名	学 事 一 郎	
総合的な探究の時間の記録		
学習活動	観 点	評 価
<ul style="list-style-type: none"> 探究課題は「防災」で、過去の災害の被害状況をグループで調べた。被災地の方々とオンライン上で交流し、実際の復興経過について話し合った。 防災訓練の体験活動を通して緊急時の対応を身につけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に身を守るための知識と対処法 協働的な学びを通して、問題解決力の向上 自助共助の意識を高め、ボランティア活動に参画 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所で生活した体験談を聞き、女性や社会的弱者に対する視点の必要性に気づき、自校の体育館を想定した避難所運営の企画をグループで発表した。 これを機に普通救命講習Ⅰを取得した。

↑新指導要録の観点と評価

宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部のシラバス(観点別目標と評価基準)→

科 目	社会探究		
単位数	1年	1	単位
履修年次	2~3 年次		
目 標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。		
●「何ができるようになるのか」(育成を目指す資質・能力)			
●「何が身に付いたか」(学習評価の充実)			
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
観点別目標	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
評価基準	使える 活用Ⅱ	教科・科目等の枠組みを超えて、様々な事柄を知ることができる。	問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できる。
	できる 活用Ⅰ	生徒自ら知識を習得し、理解を深めることができる。	課題設定を行い、情報の収集を行うことができる。
	わかる 習得	教科書レベルの知識を習得している。	問いを出すことができる。
評価方法	文献調査	中間発表会 総合探究成果発表会	授業態度 発言 アンケート
●「何を学ぶか」(指導計画)		●「どのように学ぶか」(授業の方法・学び方)	

◇ 評価

		評価基準
知識・技能	①	声の大きさや速さに気を配り、聞き取りやすく話しているか。(5点)
	②	図・表等の使い方が適切で、効果的に活用しながら発表しているか。(5点)
	③	時間設定～1分(1点)、～2分(2点)～3分(3点)～4分(4点)～5分(5点)超えたら0点。
	④	複数教科の知識が横断的に取り入れられているか。(5点)
表現力 判断力 思考力	①	テーマ設定の動機や問いが明確に示され、深い(答えがない、もしくはすぐに答えが出ない。社会的意義がある。等)ものであるか。(5点)
	②	調査・実験方法が適切で、他の文献等からの引用だけではなく、自らの実験や取材等に基づいたものになっているか。(5点)
	③	参考文献や引用がしっかりとされているか(2点) 著作権にかからないようにしているか(3点)
	④	調査・実験の結果を客観的に分析し、自らの考えや展望が述べられているか。(5点)
学び 人間性 等	①	じっくりと粘り強く探究活動(アンケートや実験の数が非常に多い、探究に自分の休日などを使って行っているなど)を行っているか。(結果や成果は出ていなくともよい)(10点)
	②	今後の探究活動が明確で的確であり、研究内容に発展性が感じられるか。(5点)
	③	普段の授業で、しっかりと探究に向かい合っていたか。(5点)※本校担当教員が記入する。

観点別評価
各20点満点
12点以上→A
8点以上→B
8点未満→C

※ルーブリック
とも対応して指
導要録の評価
欄に掲載

◇評価

		A (12点以上) 使える 活用II	B(11点～8点) できる 活用I	C(8点未満) わかる 習得
新入年次	知識・技能	マインドマップ、マンドラートを作成し、読書カードを全て埋めた。	マインドマップ、マンドラート、読書カードのうち2つは完成させた。	マインドマップ、マンドラート、読書カードなどが全て未提出だった。
	思考力・判断力・表現力	マインドマップ、マンドラートについて、しっかりと分かりやすく作られており内容が濃いものだった。	マインドマップ、マンドラートを作り上げ完成させた。	マインドマップ、マンドラートの内容が薄いものだった。
	学びに向かう力・人間性等	〇〇〇というテーマで探究活動まで入った。	〇〇〇という課題設定まで終わった。	課題設定までいかなかった。
在校年次	知識・技能	多数の教科・科目等の枠組みを超えて、様々な事柄を知ることができた。	複数の教科・科目等の枠組みを超えて、様々な事柄を知ることができた。	教科・科目等の枠組みを超えるまではいかなかったが、様々な事柄を知ることができた。
	思考力・判断力・表現力	問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できた。	問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析できた。	問いを見出し、自分で課題を立てることができた。
	学びに向かう力・人間性等	意欲的に関わろうとする主体的、共同的態度があった。 〇〇〇というテーマで成果発表を行った。	意欲的に関わろうとする主体的態度があった。 先生の前でのみ、〇〇〇というテーマで成果発表をすることができた。	主体的態度、共同的態度が見られなかった。 成果発表ができなかった。
卒業年次	知識・技能	実際に実験や調査を行い、アンケートやデータの集計まで行った。	実際に実験や調査を行い、アンケートやデータを取った。	実験や調査を行わなかった。
	思考力・判断力・表現力	最終成果発表をみんなの前で発表できた。	先生の前でのみ、最終成果発表をすることができた。	発表を行うことができなかった。
	学びに向かう力・人間性等	実験や調査を行わなかった。	最終成果発表ができなかった。	顕著な活動が見られなかった。

観点別評価
各20点満点
12点以上→A
8点以上→B
8点未満→C

※ルーブリック
とも対応して指
導要録の評価
欄に掲載

特徴1: 横断的学習

「英語科」

- ・5W2Hで問いを立てる→5W1H
- ・要旨作成→English TitleやAbstract、Keyword

「情報科」

- ・プレゼンテーション作成
- ・アンケートフォーム作成

「国語科」

- ・読書、新聞スクラップ

○○○○ (タイトル)

(English Title)

○○高校 ○年○組 ○○○○ (名前: 複数の場合は全員分記載)

Abstract: 英文要旨 (50 語程度) 研究内容が分かるように記載

Keywords: 研究において重要なキーワード (英語, 5 語程度)

1. 研究背景
研究テーマとその背景について説明

特徴1: 横断的学習

R5 宮崎東高等学校定時制夜間部 総合的な探究の時間 年間指導計画 (案)

※は短縮授業 拡総探 赤は外部講師

※	4月19日	4月26日	5月10日	5月17日	5月24日	5月31日	6月7日	6月14日	6月21日	6月28日	7月5日	7月12日	7月19日
1年	なぜ探究活動か 視聴覚室 (田原)	ワーク1 自分の強みを知ろう1~3	自分の強みを知ろう1~3 発表も兼ねる	ワーク2 月からの脱出	ワーク3 マインドマップ作成の手法を学ぶ	マインドマップ作成	マインドマップ発表	ワーク4 マンダラート作成 図書室	マンダラート作成 図書室	マンダラート作成 図書室	マンダラート作成 図書室	マンダラート作成 図書室	マンダラート発表
横断								現代の言語④ スクラップシート (マンダラートのキーワード練習)	現代の言語④ スクラップシート (マンダラートのキーワード練習)	現代の言語④ スクラップシート (マンダラートのキーワード練習)	現代の言語④ スクラップシート (マンダラートのキーワード練習)	現代の言語④ スクラップシート (マンダラートのキーワード練習)	現代の言語④ スクラップシート (マンダラートのキーワード練習)
2年	これから探究活動をはじめのために (岡本)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	中国発表会 (岡本、大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	中国発表会 (岡本、大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)
横断													
3年	探究活動を深めるために (藤波)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	中国発表会 (藤波、大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)	中国発表会 (藤波、大学生)	研究・実験 (大学生)	研究・実験 (大学生)
横断		選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの	選択科目で可能なもの
4年	探究活動を進路に結びつけよう (水永)	職業を調べよう	進路探究マインドマップ	進路探究マインドマップ	進路探究マインドマップ	進路探究マインドマップ	職業人とディスカッション (水永)	職業人インタビュー	職業人インタビュー	職業人インタビュー	職業人インタビュー	職業人インタビュー	履歷書を書こう
横断													

※高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編 第8章第2節2 作成及び実施上の配慮事項(3)

「多教科等との関連を明らかにすること」

第10章第3節1 カリキュラム・マネジメントの視点からの評価

「教科横断的な視点も含めた学校全体における探究の実現状況を評価し、改善することに努める必要がある。」

※	10月4日	10月18日	10月25日	11月1日	11月8日	11月15日	11月22日	11月29日	12月6日	12月13日	12月20日	1月11日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	
1年	ワーク5 5W2Hで問いを出す	5W2Hで問いを出す(発表)	テーマ設定	テーマ設定	スライド作成	スライド作成	スライド作成	発表練習	クラス代表者発表を聞く	ポスター作成		リハーサル・ポスター印刷・番号添付		総探紹介プレゼングループ編成協議	探究活動の実演 西野先生講演	プレゼン作成	プレゼン作成	自己探究
横断	英語文化② はがき郵便 (ポスター練習)	英語文化② はがき郵便 (ポスター練習)	英語文化② はがき郵便 (ポスター練習)	情報1② 「PP」作成手法まで	情報2② 「PP」作成手法まで	情報3② 「PP」作成手法まで	情報4② 「PP」作成手法まで	情報5② 「PP」作成手法まで	情報6② 「PP」作成手法まで	情報7② 「PP」作成手法まで	情報8② 「PP」作成手法まで	情報9② 「PP」作成手法まで	情報10② 「PP」作成手法まで	英語基礎② 「英語要約作成」	英語基礎② 「英語要約作成」	英語基礎② 「英語要約作成」	英語基礎② 「英語要約作成」	英語基礎② 「英語要約作成」
2年	整理・分析	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	発表練習	国際シンポジウム形式ポスター作成	国際シンポジウム形式ポスター作成		リハーサル・ポスター印刷・番号添付		学校紹介プレゼングループ編成協議	プレゼン作成	プレゼン作成	プレゼン作成	社会探究
横断	数学1④ 統計の手法、EXCEL グラフの作り方	数学1④ 統計の手法、EXCEL グラフの作り方							英語④ 「英語要約作成」	英語④ 「英語要約作成」		英語④ 「英語要約作成」		英語④ 「英語要約作成」				
3年	整理・分析	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	発表練習	国際シンポジウム形式ポスター作成	国際シンポジウム形式ポスター作成		リハーサル・ポスター印刷・番号添付		宮崎紹介プレゼングループ編成協議	プレゼン作成	プレゼン作成	プレゼン作成	
横断									ビジネス情報②選 「EXCEL応用」	ビジネス情報②選 「EXCEL応用」		ビジネス情報②選 「EXCEL応用」		ビジネス情報②選 「EXCEL応用」				
※	推薦入試と一般入試 お礼状とは	募集要項とは お礼状作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	スライド作成	本選に向けて	本選に向けて		リハーサル・ポスター印刷・番号添付		3年間(4年間)を振り返って		推薦入試前日		進路探究

総合探究成果発表会：予選

総探会：本選成果発表

(田原、岡本、藤波、西野)

特徴2: アドバイザーの配置

- **新入年次**

桑畑夏生(宮崎大学)

梶谷真司(東京大学教授)



- **在校年次(2年生)**

岡本尚也(Glocal Academy代表理事)



- **在校年次(3年生)**

難波裕扶子(シンク・オブ・アザーズ代表取締役)



～成果～

- ・人前で話せるようになった。(不登校だった生徒達がどんどん発表するようになった。)
- ・自分たちでアンケートをとるなど動けるようになった。
- ・総合的な探究の部活動を作りたいなど、積極的な生徒が出てきた。

※東ラウンドテーブルで先生方から出てきた内容等より抜粋

～成果～

- ・海外の研究者とつながるなど広がりも出てきた。
- ・講演を通じて成果を発表した。
 - 「探究活動を通じて論理的思考力を育てる」(青森)
 - 「総合探究設定講座」(東京)
 - 「進路多用校での探究学習のステップ」(長崎)
- ・教育関係機関から取材が来て、雑誌に掲載してもらった。

月刊高校教育

昭和43年7月20日第3種郵便物認可
2021年12月1日発行 第54巻第12号(毎月10日発行)

2021年

12月号

月刊高校教育

昭和43年7月20日第3種郵便物認可
2022年10月1日発行 第55巻第10号(毎月10日発行)

2022年

10月号

〈特別企画1〉
いま、学校と社会をつなぐとは

〈特別企画2〉
学力向上・授業改善のための
日常的なICT活用に向けて

〈短期連載〉
管理職調査からみる高校部活動② 矢野博之

「18歳成年」に備える

「18歳成年」に当たって、今、高校で取り組むべきこと 堂徳 滄人
定時制高校の経験から考える「18歳成年問題」 堂深 俊規
「18歳成年」にかかわって学校で留意すべきこと
文部科学省初等中等教育局参事官(兼)高等学校担当 付
成年年齢下げについて
押さえておきたいポイント 法務省
若年者の自立を支援する
消費者教育の充実 消費者庁

巻頭インタビュー
高校での情報教育推進
鹿野 利春



課題集中 教育困難を 乗り越える

〈特別企画〉
「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿(下)
文部科学省総合教育政策局教育人材政策課
〔報告〕
第29回日本高校教育学会大会
〔特別寄稿〕
〔論理・表現〕でことばと思考力を豊かにする 横川博

「教育困難校」の今とこれから 朝比奈 なを
ヤンキーと地元の産業 知念 渉
チーム学校の一員として、若者に寄り添う 工藤 啓・井村 良英
「学び直し」で厳しい状況を乗り越える 白鳥 秀幸
生徒支援の本丸は授業 小林 美奈子

巻頭インタビュー
「いい子症候群」を生んだ大人社会
の反省とこれからの教育
金間 大介



「2021年
月刊高校教育
12月号」
P86~

“定時制課程での
探究をデザインする
取組”

「2022年
月刊高校教育
10月号」
p76

“みらいの高校教育”

ご清聴ありがとうございました。